

9枚目のCDは、 「会計3兄弟」と「税金ヒストリー」

近畿会 八ツ尾 順一

毎年「税金のうた」のCDをリリースしているが、令和4年は、「会計のうた」を作った。「会計3兄弟」と題するうたで、「B/S」「P/L」そして「C/F」をそれぞれ歌い、最後は、「…社会



のために、ステークホルダーのため、ディスクロージャーする」と締めくくっている。このうたを歌えば、会計の基礎知識が得られるということである。メロディーは、ビートの効いた、強いアクセントのあるリズムである。機会があれば、会計教育に、是非、使っていただきたいと思っている。ところで、会計教育といえば、10年以上、大阪大学高等司法研究科（法科大学院）で、客員教授として、「財務報告戦略」（会計学）を教えている。「財務報告戦略」という難しそうな科目名であるが、その内容は、会計学の基礎である。もちろん、会計学は、司法試験の試験科目にはない。法科大学院のカリキュラムでは、会計学は、基礎法学・隣接科目の科目群になっている。裁判官や弁護士も会計学の知識は必要であるという。受講生に「財務報告戦略」を選択した理由を訊くと、司法試験の選択科目で、破産法や租税法を選んでいるからという。これらの法律科目は、会計学と関係が深い。また、会社法も会計学の知識が必要である。しかしながら、受講生の殆どは会計学に関して「初学者」である。それ故に、限られた授業時間（90分×15回）では、「貸借対照表」「損益計算書」そして「キャッシュ・フロー計算書」を中心として、説明することになる。後期から始まる「財務報告戦略」では、この「会計3兄弟」を受講生の全員に伝授し、その内容を歌いながら理解して貰おうと密かに思っている。

そこで、「会計3兄弟」（4コーラス）の歌詞を紹介しながら、コメントしたいと思う。

1 僕の名前は バランスシート

左は借方 資金運用の 資産
右は貸方 資金調達 の 負債と資本
借方と貸方は バランスする
ゲーテも驚く 複式簿記
僕は長男 会社の財政状態を
明らかにし 社会のために
ステークホルダーのため
ディスクロージャーする

（コメント）

1コーラスは、勘定式の貸借対照表をイメージして貰いながら、借方は「資産」で、それは、資金の運用形態を示し、一方、貸方は「負債と資本」で、資金の調達源泉を表していることを伝えている。そして、複式簿記の原理を絶賛した詩人のゲーテが登場する。貸借対照表は、会社の「財政状態」を明らかにすることを目的としている。金融商品取引法1条では、「…国民経済の健全な発展及び投資者の保護に資することを目的とする」としている。そこで、会計は、社会やステークホルダーのために「情報」を提供していると締めくくっている。

2 僕の名前は プロフィット アンド ロス

左は借方 価値犠牲の 費用
右は貸方 努力成果の 収益
収益から費用を 差し引く
プラスは利益 マイナスは損失
僕は次男 会社の経営成績を
明らかにし 社会のために
ステークホルダーのため
ディスクロージャーする

（コメント）

2コーラスは、損益計算書のうたで、借方は「費用」、それは、収益を得るために失われた経済価値、すなわち価値犠牲である。これに対して、収益は、企

業の生産活動や販売活動による努力によって得た成果（努力成果）である。これらのことを十分に理解して、損益計算書は、収益と費用の状態を示し、「経営成績」（投資の効果）を明らかにしていることを歌うのである。以下、社会のため、ステークホルダーのためは、1コーラスと同様である。

3 僕の名前は キャッシュ・フロー
企業の血液 それが キャッシュ・フロー
これが 止まれば たちまち会社は 倒産
「営業」「投資」に「財務」の活動
大切な情報 だけと 会社法にはない
僕は三男 資金の 流れを
明らかにし 社会のために
ステークホルダーのため
ディスクロージャーする

（コメント）

キャッシュ・フローは、人間に例えれば、「血液」であるとよくいわれる。損益計算書でどんなに利益を計上していても、資金繰りが悪くなり、手形が不渡りになれば、会社は倒産する。キャッシュ・フローの表示区分は「営業活動によるキャッシュ・フロー」「投資活動によるキャッシュ・フロー」そして「財務活動によるキャッシュ・フロー」である。これらは、企業の現金創出能力と支払能力を査定するのに役立つ情報を提供するものであるが、何故か、会社法では要求されていない。以下、社会のため、ステークホルダーのためは、1コーラスと同様である。

4 僕たち 仲良し 3兄弟
みんな 僕たちを 信じてる だから
会計3兄弟 会計3兄弟
仲良し 会計3兄弟
僕たちは 真実の 大切な 情報を
明らかにし 社会のために
ステークホルダーのため
ディスクロージャーする

（コメント）

4コーラスでは、会計＝情報であるということ、そしてこの情報は、社会のため、ステークホルダーのために真実のものを提供しなければならない、大切なものであることを強調している。

以上が「会計3兄弟」の歌詞の意味内容である。会計のエッセンスを歌ったもので、これによって会計の存在意義が広く世に浸透するのではないかと、自画自賛している。

最後に、蛇足ながら、「税金ヒストリー」についても若干、歌詞の内容を紹介させていただく。

「税金ヒストリー」は、その名のとおり、税金の歴史を永々と歌ったものである。

まほろばの飛鳥時代（租・庸・調）から平安時代、室町時代（通行税）、戦国時代、安土桃山時代（太閤検地／二公一民）、江戸時代（五公五民／運上金・冥加金）と続き、そして明治（地租改正）、昭和（シャウプ勧告）、平成時代（消費税）までの気の遠くなるような歴史を7コーラスで、そのときどきの税金と絡めて歌ったものである。このうたで、高校の日本史はバッチリである。

メロディーは、かまやつひろしの「我が良き友よ」のテンポのようにと作曲担当の古屋創太郎氏（ギター）にお願いしたのであるが、如何であろうか。

令和4年度税制改正で、税理士制度の見直しが行われ、「税理士法人の業務の拡大」の中で、「租税に関する教育その他知識の普及及び啓発の業務」が入った。「税金ヒストリー」もこの部類に入ると思われるが、租税教室などで使用されることを期待したい。

なお、「会計3兄弟」及び「税金ヒストリー」のCDは、10月上旬にリリースされる予定で、カラオケ（JOYSOUND）は、12月下旬に入ることになっている。

